

令和5年度第1回富谷市総合交通検討委員会 会議録

開催月日	令和6年3月4日(月)		
開会時刻	16時00分	閉会時刻	17時00分
開催場所	富谷市役所3階 305会議室		
議 題	(1) 富谷市都市・地域総合交通戦略(基本計画)進捗状況について (2) 令和5年度富谷市次世代都市交通システムの導入可能性調査の概要について		

出席の状況(○出席者・×欠席者)

1	徳永 幸之	○	2	鈴木 俊介	○	3	中村 信男	○
4	多田 康則	○	5	平岡 政子	○	6	植松 晋一	○
7	宮野 大樹	○	8	山田 憲彦	○	9	中嶋 吉則	○
10	江本 篤夫	×	11	草野 昭徳	○	12	武内 浩行	○
13	神田 能成	○	14	狩野 悦子	○	15	二階堂 聡	○

【代理出席の状況】

宮城県大和警察署 交通課長 宮野 大樹 ⇒ 交通指導係長 小野寺 貴彦

宮城県企画部地域交通政策課 参事兼課長 山田 憲彦 ⇒ 主査 左古 瑞樹

宮城県土木部都市計画課 課長 中嶋 吉則 ⇒ 技術副参事兼総括課長補佐 佐々木 健志

仙台市都市整備局総合交通政策部 部長 二階堂 聡  
⇒ 交通政策課計画係長 石澤 由※オブザーバー

議 事 内 容

- 1 開会 (16:00)
- 2 市長挨拶 (16:01~16:04)
- 3 報告 (16:05~16:57) 議長 徳永委員長
  - (1) 富谷市都市・地域総合交通戦略(基本計画)進捗状況について  
○質疑応答(別紙のとおり)
  - (2) 令和5年度富谷市次世代都市交通システムの導入可能性調査の概要について  
○質疑応答(別紙のとおり)
- 4 その他 (16:58~16:59)
- 5 閉会(17:00)

記録：企画政策課交通政策推進室

## 令和5年度第1回富谷市総合交通検討委員会

日時：令和6年3月4日（月）16:00～17:00

## ■ 質疑応答

委員等名	内容（要約）
報告（1）富谷市都市・地域総合交通戦略（基本計画）進捗状況について	
鈴木委員 （宮城交通）	<p>先月春の路線バスのダイヤ改正で、減便と仙台市内一部路線の廃止を公表した。今年度の路線バス事業はおよそ5億5000万円という巨額の赤字を計上する見込みで、さらに4月から2024年問題で運転手不足（今回の減便の要因の一つにもなる）が見込まれ、追い込まれた状況にある。このまま状況が悪化すると、富谷市内の大幅な減便や最終便の前倒しにもなりかねない。</p> <p>今後も引き続き運行を継続できるように努力を続けるが、民間事業者の自助努力だけでは厳しい状況にあるというところをご理解いただきたい。その中で、富谷市の総合交通戦略が作成されてから4年間、路線バスに対する取組がほとんどなされていない。昨年度の同委員会でも同じ話をさせて頂いたが、この現状にとどまっていることは残念。</p> <p>資料最後のページでPDCAを謳っているが、富谷市に本気で取り組んでいただかないと、何もならないと思う。国庫補助の活用についても、まず地域公共交通計画にする必要があり、ほとんどの補助メニューは地方公共団体が主体的に計画に関わっていないと活用できないためである。共創・MaaS実証プロジェクトをはじめ、社会資本整備総合交付金など、様々な補助制度が非常に手厚くなっている。それらの補助金を活用し、具体的かつ戦略的に市民の足を維持する施策を展開するよう、お願いできればと思う。</p>
事務局	<p>宮城交通は富谷市にとって必要不可欠な路線バスを確保しており、日頃から大変お世話になっていることにお礼を申し上げる。路線維持のための様々な施策を展開する必要があると考えてはいるところ、この4年間において直接的な支援までは至っていない状況であり、申し訳なく思っている。</p> <p>来年度以降、地域公共交通計画を策定する予定であり、宮城交通と共に路線バスを維持するための様々な取組を検討していきたいと考えている。</p>
若生市長 （富谷市）	<p>ただいま宮城交通からご指摘いただいたとおり、現在民間事業者が大変な状況である中、本市として具体的な支援や対策が取れてこなかったこと、また、その基本となる国の支援制度や補助金を活用するための計画がなかったことも含めて改善が必要と考えている。</p> <p>今後は急ぎで地域公共交通計画を策定し、それに基づいて国からの様々な支援を活用したい。</p>
徳永委員長 （宮城大学）	<p>この4年間は主に新たな交通システムの検討を中心に進めてきた。その中で既存の交通をどうしていくのかという議論がなかなか進んでいなかったことは事実だと思う。これは富谷市だけの問題ではなく、公共交通を検討する際に、他の市町村でも自治体が直接関わっているコミュニティバスの運行などの検討が主体となる傾向にあり、JRや宮城交通等についてはあまり検討されてこなかった。</p> <p>最近では、JRの赤字ローカル線問題も浮上し、幹線交通や民間が主体で運行するものと、地域内の自治体が主体になっている交通の間で連携を図って一緒に考えていくことが必要になってきたが、まだ具体的にそのような議論ができていないところが少ない。例えばJRの便別/駅別の乗車数について、JR自体もそのデータを持っていない。そして連携をどうするのかと議論するための必要になるデータを持っていないため、検討が進められていない状況にある。</p> <p>富谷市において、補助金等の体制的な支援を求めることだけではなく、利用者をいかに増やしていくかを考えるべきである。特に富谷市の場合、人口も交通量も増えている中で、渋滞がより深刻な問題となっており、路線バスの運行にも影響を及ぼしている。その課題解決に向けた取組も必要である。今後に向けて、民間事業者等の関係者より積極的に発言していただき、みんなでできることを含めて議論を深められればと思う。</p> <p>基本計画の策定時から、社会情勢がまた大きく変化してきて、都市開発や工業団地の造成などにより、富谷市においても様々な影響が出てくると想定できる。それらも考慮し、見直しをかけつつ、後期計画に反映できればと思う。</p>

委員等名	内容(要約)
鈴木委員 (宮城交通)	資料1-1の3頁 施策⑩「通学費支援策」について、慎重な検討をお願いしたい。「とみばす」のように日中時間帯における比較的空いている便に乗りしていただき、乗車密度を高めることは大歓迎であるが、学生、特に高校生は基本朝ピーク時に集中してバスを利用するため、さらに利用者数が増えると乗りきれない恐れがある。その場合、運転手不足のため、増便はできず、仮に増便ができて学生は朝夕しか乗らず、夏・冬休みの時も乗らないため、収入より支出が上回ってしまい、赤字が拡大する懸念が大きい。学生への支援は当然大事だが、他の交通施策と合わせて考慮する必要がある。
事務局	学生への支援をした結果、どういう状態になるか、しっかりと運行していくことが可能かどうかを想定した上で、学生への支援制度を検討していきたい。宮城交通には検討案ができた段階で、事前に相談しながら、学生への支援と路線維持のための支援策と一緒に検討できればと思う。
報告(2) 令和5年度富谷市次世代都市交通システムの導入可能性調査の概要について	
徳永委員長 (宮城大学)	今回の検討を受けて、今後はどのように検討を進めるか。
事務局	今年度の調査では、地下鉄整備の場合とBRT整備の場合の比較検討を行ったが、どちらで整備していくかの結論は出ていない。この結果をもって、関係機関からの意見等をいただきながら、今後の進むべき方向性を調整していきたいと考えている。
平岡委員 (明石台第二町内会)	関係機関というのはどういう関係の機関か。
事務局	色々な関係機関があるが、最も関係が深い関係機関としては、仙台市と宮城県を想定している。それらの関係機関との協議調整が最も大切であると考えている。
平岡委員 (明石台第二町内会)	資料を見て、ここまで計画が進んでいることが分かり、計画通り進めれば便利な交通機関ができると思う。一方、周辺に住んでいる一市民として、以前にも市長にお願いしたように、地下鉄を諦めるわけではなく、これから10年/20年/30年後のことより、今地域住民が困っている、生活に密着している交通問題に対して、地下鉄でもそれ以外のものでも、今できることからの検討も必要と思う。 計画自体は素晴らしいものと思うが、ここにいる専門家の方々が首をかしげているようにも見える。整備するにあたり、これから若い市民に色々負担をかけてしまうのではないかと非常に心配している。計算のシミュレーションだけでは大丈夫なように見受けられるが、かなり大きな事業のため、今後事業を進める中で、慎重に議論していただきたい。
事務局	昨年度までの地下鉄整備も今年度のBRT整備も、目標としている開業年を2040年と想定している。それよりも、今の生活に密着している公共交通の課題もあり、それらについては来年度、計画期間がより短い地域公共交通計画を作成する中で、公共交通の課題を解決するための短期施策を検討していく。 事業費については、一定の条件のもとで概略的に出したもののため、検討レベルに合わせて今後さらに詰めていく必要がある。
徳永委員長 (宮城大学)	結論については、すぐ出せるものではなく、富谷市だけでできるものでもない。特に今回のルート案は、ほとんどの区間は仙台市内にあり、富谷市を始め、宮城県、富谷市以北も含めて、将監トンネルの渋滞対策を考える必要がある。 また、高架案が難しいため地下案を中心に検討したということだが、単純な感想として、地下トンネルを作るのであれば、地下鉄を延伸してもいいかなと思った。ただし、いずれにしても、地下からの出口をどう作るのか、そこで他の路線とどう接続するのか、もう少し具体的に詰めていかないと全体としての使い勝手がよくないと思っている。 他の路線との接続とは、例えば高速バスと接続させたら、大和町や大衡村、栗原市、場合によって気仙沼市、さらに岩手県も含めて、検討の余地があるかもしれない。さらには、仙台北部中核工業団地あるいは富谷市自体でもさらなる工業団地の造成を考えている中で、従業員・家族がどこに暮らすか、よりよい地域にするためには何が必要かなども含めて議論する必要がある。そのように検討を深め、より広域的連携の中で地域の交通問題に関する議論を進めるべきである。

委員等名	内容(要約)
草野委員 (社会福祉協議会)	<p>地下鉄にしてもバスにしても、今すぐ結論付ける問題ではなく、国や県の中で、富谷市または黒川地域の将来的な位置付けや方向性が見えてきてからでも遅くないと思う。</p> <p>地下鉄は非常に便利だがその分費用がかかる。地域住民からすれば、時間を費やしても地下鉄がいいという意見が出てくるかもしれないが、その間をどうするか。20年も先のことを考えるよりも、そのつなぎとして、地域が協力しながら、現在地域の交通を担っている宮城交通をどう支えていくかという課題の方が重要ではないかと感じている。</p> <p>地域も頑張るが、宮城交通の方はもう少し地域にPRしてほしい。地域の足の確保について、1年に1度くらい話に出るが、なかなか続いていかない。今後は、地域と交通事業者と一緒に努力し、自分たちの足の確保について、真剣に考える必要があると思う。</p>
事務局	<p>令和6年度は、これまでの成果をたたき台として、関係機関の宮城県や仙台市と協議していきたい。ご指摘の通り、これは富谷市だけの問題ではなく、仙台圏域あるいは宮城県域の中で、広い意味で各関係市町村とも協力しながら検討していきたいと考えている。また、関係機関の中でも、公共交通を担っている宮城交通の存在は必要不可欠だと認識しており、連携を深めつつ議論を進められればと思う。</p>